



繪のあしむ





賦何詩能諧連歌

古きもや春う先紙

治帝耳日の太郎 在轉

いと縁らひのさ

的き祢昔の連 雲臺

蟻とのくまらん

甲斐のさるらや 亀夫

①

賦何濫能諧連歌

常おほくは鶴の

手柄や明れ春 楚琴子

美 戸 もくめ

まゝの梅り香 在轉

のくさくさ 鯛了

美福柄れはけて 声波

一字除篇

いち志く小松も

子代のまじり 雲臺子

のまき 美坂 汲んて

あまき 鶴 在轉

不性れ 高き かの

めしり 歌國

一字他添

弟由主人松野一七

獨立富士此手柄也

るり 如くすも 亀文子

いらくく 何の じよ

御意乃春夜 在轉

くも 長生殿小

桑一 ちん 文水

賦何干俳諧連歌

東路の梅よ繁志らむ

ちん 日りの 江鳥子

不ニれ ちん ちん のちん

くく ちん 在轉

うけ 海子 ちん 庵城

らり ちん 里橋

賦何希能諧連歌

彩の子也 仙家弦
雲 哉 奇 ち しく 見 女 相 莪 子
唇 羅 の 香 花 山 也
樽 子 ち ち ち ち ち 在 轉
籟 也 欄 ち ち ち ち ち
凍 解 一 一 吉 坦

賦何昔能諧連歌

面白也 我物ふら
衣 紋 杏 英 子
彩 玉 の 花 一
あ ち ち ち ち ち 在 轉
供 拵 ち ち ち 林 ち
騰 ち ち ち 其 曉

三字中略

梅流くく松の林也

神一乃書 棠英子

山みみ知いんじり

みふくし 在轉

助應智れりむらさきの

めも 杏宇

三始 年尾

曙や雪能其は今朝乃春 春里

通れとの年の岡守門の杏 在治

一と安成かえし初るる籍の嘴 在治

松立く志川の前年能うる船 錫友

破魔弓やおきする御代の細工の 錫友

りともや昔子夜の梅牙雪 向人

のちの母今朝や茶峯はつら船 向人

引くや淀流き手はもとより 向人

秋高木の松やとるまや 門の松
引船や舟をたてたの船子世
こふ人のふ葉吹うるまの香
聖向りとりふ変かふ此事のふ
橙の曲老や 旭を待りのま
喜とりふ花の園向りま 下坂
壺初や 曇色居る玉の春
清がふ浅しうるまの垣鯨
福喜舟の望是うるまの春
棒船と上戸子送しとりの地

菊印

典志

在芦

在汝

莎魚

新しや古ま神代のと郊の春
手波の波うるま 市二り
吟摘や行くま 慈山すうい
身捕の福喜舟向り年一と扱
一とあの其一と又まや ちをるま炭
りとの日ま一明う一船の後
喰つて書 喜秋ふあうま 語し
行手やうれと梅向り 柳向りま
初室戸の一目ら代に 花接霞
此山の古まむ合やとりの帝

渭水

雪轉

麥轉

在魚

遊夕

ひきさしよもあつ門田の初とらよと兼
蝶ゆつ川音待振りや音待子入
つねやあつ御さ家と安房宮
り海の岸の姫松今音待お
えう厚ういゆる師走の福妻仲
ひきほのち口の出し向ふ飾あを
大媽くわ此揃り冬の新日山
押さたきのほり車わりの板
屠癒のまやあ者あけ祭の音
揃りよ星月あつり大晒日

煉間赤塚

孤夕

文丁

吾友

蛙候

凉市

六

若水やおくおとくは声あけ
り海の向いあえや一暗と暫
初不二日日本一姑山うつ
限世の累色やと一乃垣纏
富妻さお杜母も低一福妻仲
福ちしち鬼らおへと君の代や
葛飾や初り片鴨のまの事物
さうくは大事子下りよ海待推
とあくのりは顔く々郎の妻
山人も猿松近しよ川や妻

声波

允執

歌国

淇水

審之

七

玉川も屠獲も意違うる事
 孤身も同じ孤と地乃加ハ
皇都の春をしのび
 宵影や百里の遠き初り歌
 心せよ遠くとも一の代さし
 福壽軒代々のこころは通
 西の海にけり知れぬ
 萬事やかゝるぬ同士の為
 川もや何と無く橋の上
 書初らば返事と物の名も
 新事も包む扇も十二新

淵雅

山流

筆人

疎洲

女
峯山

毎川も子かゝる事
 去る波の何れともまた宝船
 水のあやむのめをこれ
 年の屋舟玉をかざるわ
 稀く子女もれともや
 ハ橋の事かゝる事
 心くと初代子明
 七代と縁の金も
 松井や其上
 併茶舟而進の園

軒
活人

在壽

尹翹

文朝

在馬

着水也 八百八町 臥足方
目答もむ替る物也 古曆
元り也 篋よ去年の水 出る
耕一也 春よ山とく 小路迄
初鰯也 家物 魚の山とく
とく のもち 格子子 初言 菅葉
玉性の 髪白ふ ちり 初子 洗
梅子 じ世 師走の 足も止 くら
鯉 鱒の 屋と 振り 初く 明の 春
り とも 下 撞子 力の 有る あり

在 戩

在 鳥

東止 龜命改

細 雨

其 交

幾千代也 松子 くらふ 明の 春
松子 幾代 ちきり 赤い こと
着水也 志け じあ ち 然 こと
風 の こと 年の くら 独 あり 帆 立 貝
墨 色 の 柳 子 白 あり 初 曆
車 ち 春 花 と 初 あり 高 季 ち
之 独 の あり あり こと 山 ち 独
市 二 口 師 走 の 暮 と あり こと あり
福 吉 軒 足 也 初 代 の 其 形
足 迄 の 塩 河 ん ぎ へ ち 志 縮

在 雅

在 尾

在 楚

其 曉

杏 宇

谷の戸の胸ももるをりしき賣
と一の船を越もや先キや谷の玉
と一船とる名もおのしも子四方の妻
来る年をいも好も出る除夜の事
恙くとさし一の始や口の太郎
と一の船も雨をよ徳の長所走か
地の理もや松叶かふる己の初日
天の時を得るもや名をも辰の書
不二の繪の扇ゆなや四の妻
葉のしち子福も来より一年一扱

亀丸

示

里橋

蕪厂

寸志

九

年の花柳の栗思もむりし
家毎日松竹並み葉書か
くらや物と葉をよを春を待つ
よむはまや梓と也の結ともあ
葉葉やまの恨も入り来る向ふ地
馬本賣るる時や一の牛尾を賣
取持多る身またのしも玉乃若
川と一や翁もいもと塩 鏝
作向く空の光や玉乃春
臣や多君も船もく置えりぬ

五風

蘭袖女

蘇龍

ト室

花光

十

接抄と是る所はのり〜筆の結
万葉の物言も何れ〜
象扇も我も新〜注連飾
吟揚や貝小雲海乃年々義
埋こ本とおもふる花の春々又
花とり本と花の夢や川ちのうら
其後よ外山も千代の松の雲
と〜ちんの触れ下まの〜一扱
ちの不二のまの〜け〜おの誓
せま〜終や足も番とら明心物

千里

菊歳

芦英

喟紅

在掬

吉原中農

象内よか客と何〜と難茨の如
空区に唐も花の〜〜
之りや梅子かおり朝ほ〜も
君の代や追儺の鬼の甚弱
吟つ〜年々その何〜
身尾は徳とは〜の飾
足と〜武々又〜花の夢
の〜餅の肌やひ〜志のぞ
車井や幼山〜
角大吟綱瓜踏ん〜

^全柳四

^全久亞

^全青牛

^全岩附
之

^全五井

③

子の舌も世りも望 桃太帝月
花信也 祖父や娘のとも 志
書初や 玉ふりか字の争あり
志川りさよや松の立枝の仰走ぶ
初室や 藍も時あめ染機舞
暖や 仰走の中のもめの花
陸の言も物中へけく 唱の書
か〜ばのや 笛のあ〜り
初鶯や 流子 續く〜めりき賣
年の〜ちよ 書のみ〜る 書巻の粉

(十)

^全梅露

^全金陵

^全雨石

^全有湖

在橘

籍の息も〜長〜今物若春
又遠を在五中おさ〜の市
室川や 海に 就のゆき〜路
様まの〜り 花咲 仰走り如
若水や 兼代や 井の地 踏々 舞
〜ちり 花や 柳も 如歌の志も〜有
一ッ 扉〜起 上り 小法師 太云 月
面 打や 耐り 穀のや〜 乃 咲
幾千代も 春の 羨り 中 乃 咲
か〜りよ 惜〜と 免さ〜る 年〜志

素轉

珠人

春人

沾富

香馬

(九)

車井巾子代りて雪く 鶴の声
 さしらのさしき春の千代わらばるる
 六四角の吹くもは江戸の松の暮
 聖と又のさしは 阿波のさし
あまのさし
 山林も表り 東海路のさし 屠蘇
 愈と子山 阿波のさし 雨のさし
 屠蘇のさし 古き白ひのさし
 けしらのさし 恨とさし けしらのさし
 けしと油のさし けしらのさし けしらのさし
 けしらのさし けしらのさし けしらのさし

疎明

竹葉

文水

車雲

在有

青陽の其色とてや 門乃松
 年のけしと躍あてく 養老松
 人さしと葉のけしと 明の暮
 とさしと人さしと 年の暮
 て地や此こけしと けしと
 葉のさしと けしと
 けしと けしと
 けしと けしと
 けしと けしと
 けしと けしと

止曉

秋^{戸田}雨

渡舟

雨夕

齒坐も一様安んずる月しを
 とのしらよ見物梅や室の向
 第第中一古き拍子若津美若
 蝶もまや何しも色の思き耐
 双六や五十三次い妻乃若
 ちらつて中鳥ハ存しつる連
 手の平ラ一拈申る花雨福喜中
 又と柳叫ぶ所走の何しは媛
 面壁のしら橙乃其存しつる
 とのさう耳くあむ権持の如

幹支間
長湘

在垂

在助

文之

寒霞
烈張

美筆のぬりたる孫や花乃若
 あの子身何なるも妹し身若豆
 初室や若も若乃喜由波
 とつ市女も若代若若若衣
 吟橋のかの海島や年く月
 一と志き望松子若何若直の如半
 見しつるのしらつる松也若
 空透くもつるの若樵の立田山
 舞子入の奴は庭子今朝の春
 舞子の若こつる出世乃角刀取

柳枝

雪山

辰市

金風

芥天



蘇埃布 春此のち記

葉のさ流

雲真子

文南画



日ノ雲々

口の

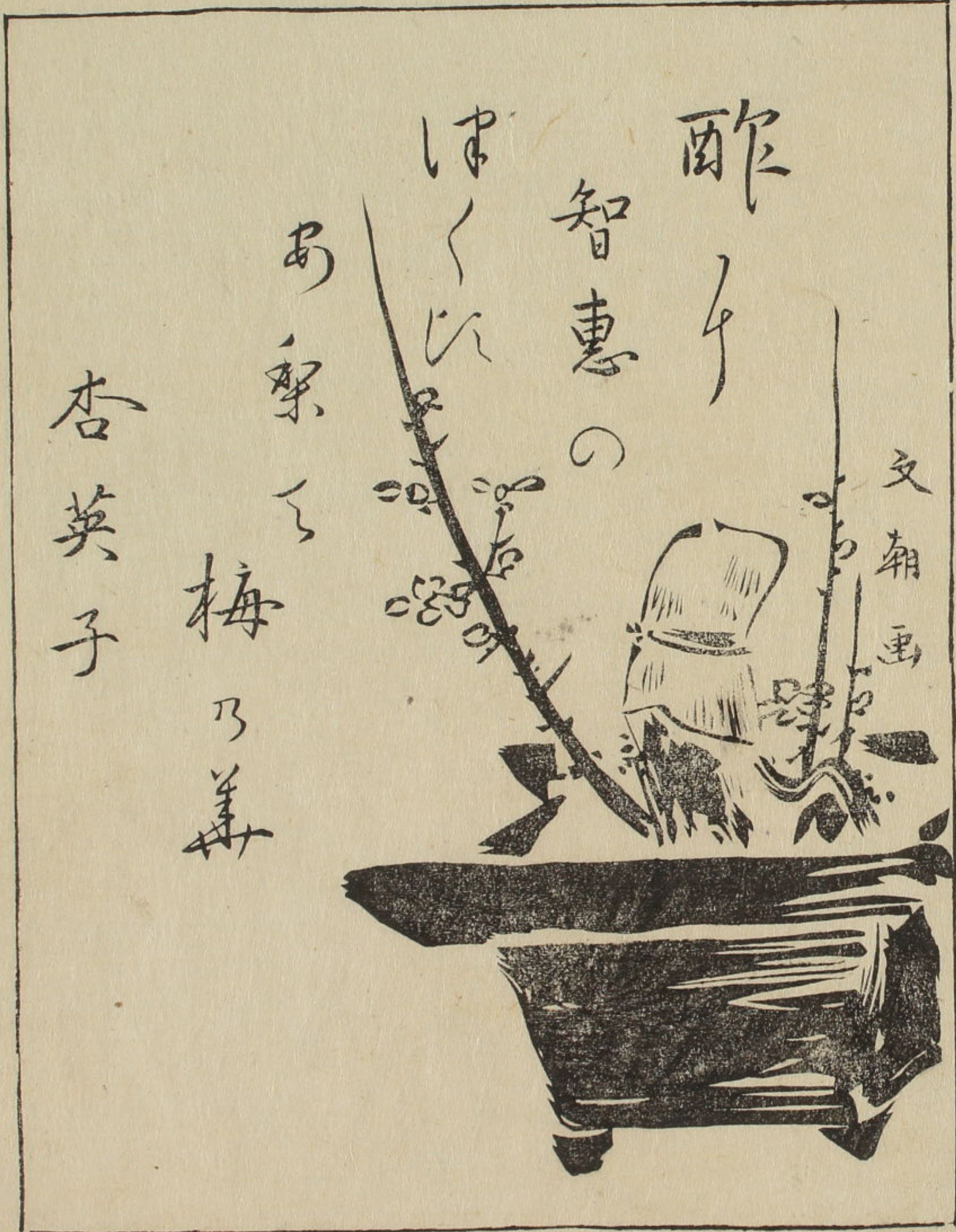
ほけ

桂の如

楚琴子

文南画





酔子

智恵の

はくは

文相画

あ梨

梅乃美

杏英子



早免嘆也 梅社子

卓に干く石鼓

繪之四

杏英子

取台いハ

島子

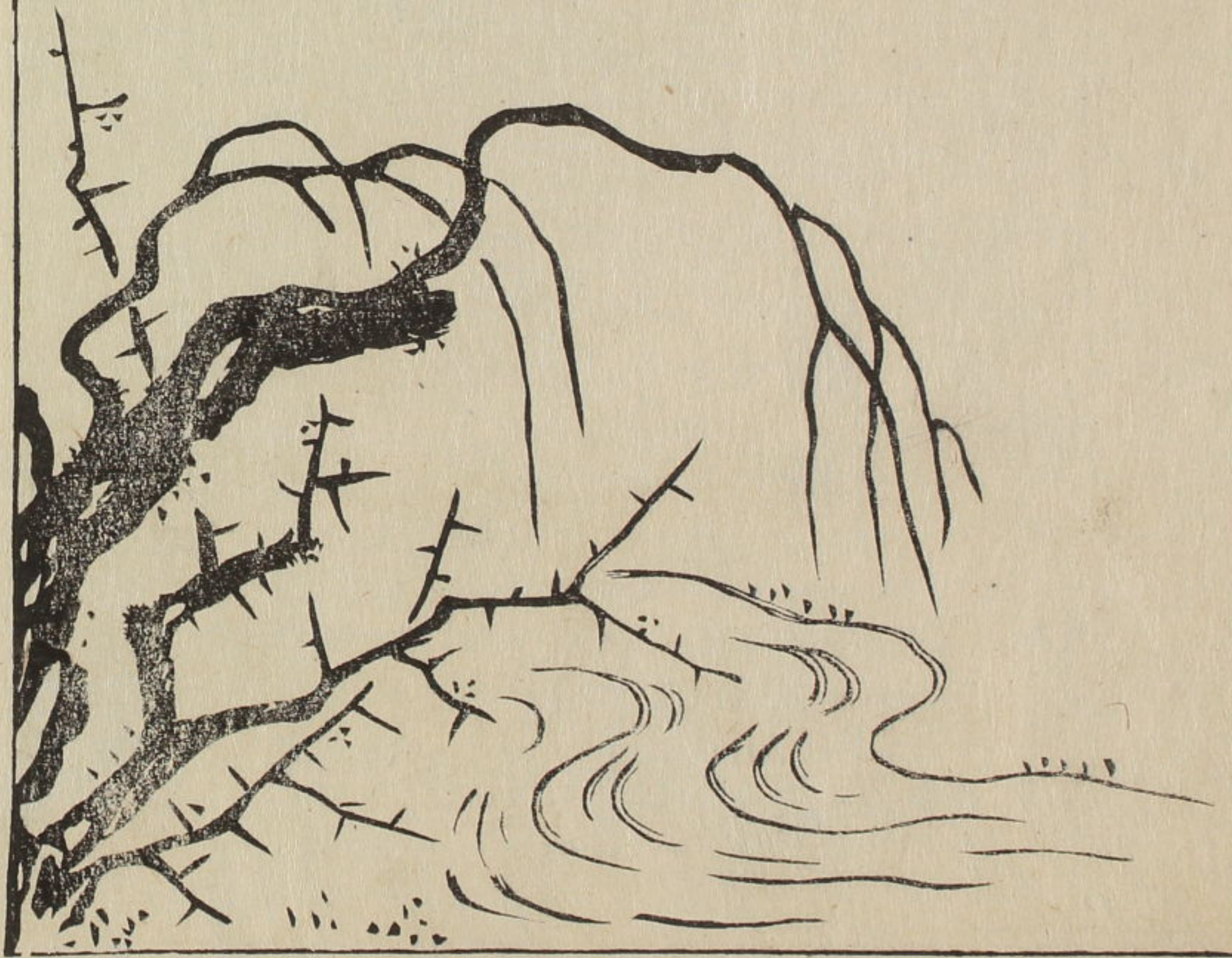
加満く怒

楳哉

仙中金

崇英子

松水画

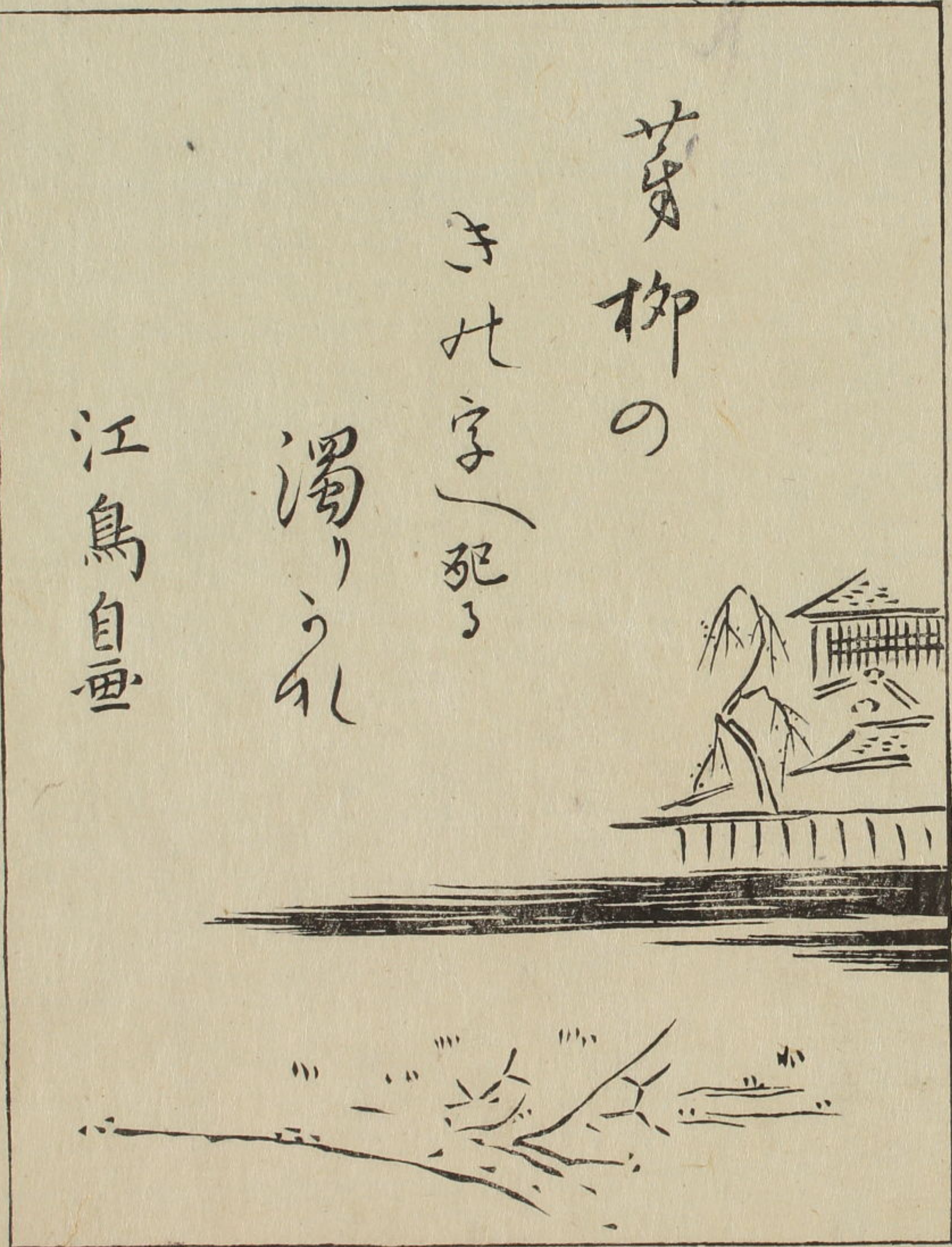


茅柳の

き此字一死

濁り水

江鳥自画



雛子
 見渡
 胃
 旭
 美



雛此巢也

尼々小庭也

お毛一りす

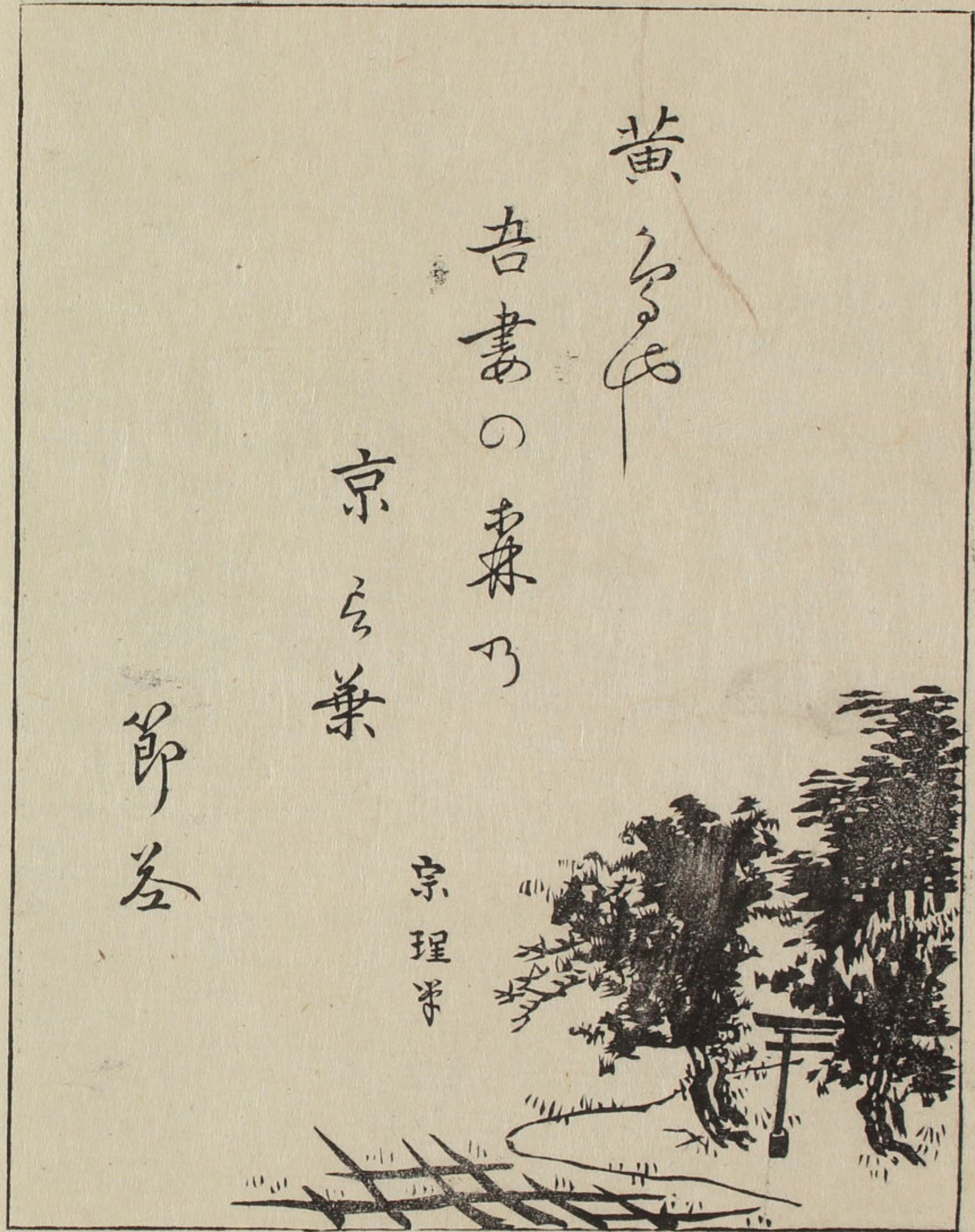
女
相
哉
子

周
芳
年



中
の
水
に
雀
子
届
く
妻
が
家

卜
室
画
撰



黄
の
花
吾
妻
の
森
乃

京
と
葉

節
巻

宗
理
筆



勝川春水圖

う
く
ま

酒の相人

梅の花

芦英



月下之人

平林

津之

吾菜

袖子
く
ね
み
か

う
く
ま
め
れ



あはれや市

在治

撰む朝風

白魚や曉

典志

月智細島



宗理画

十五

梅

七
く

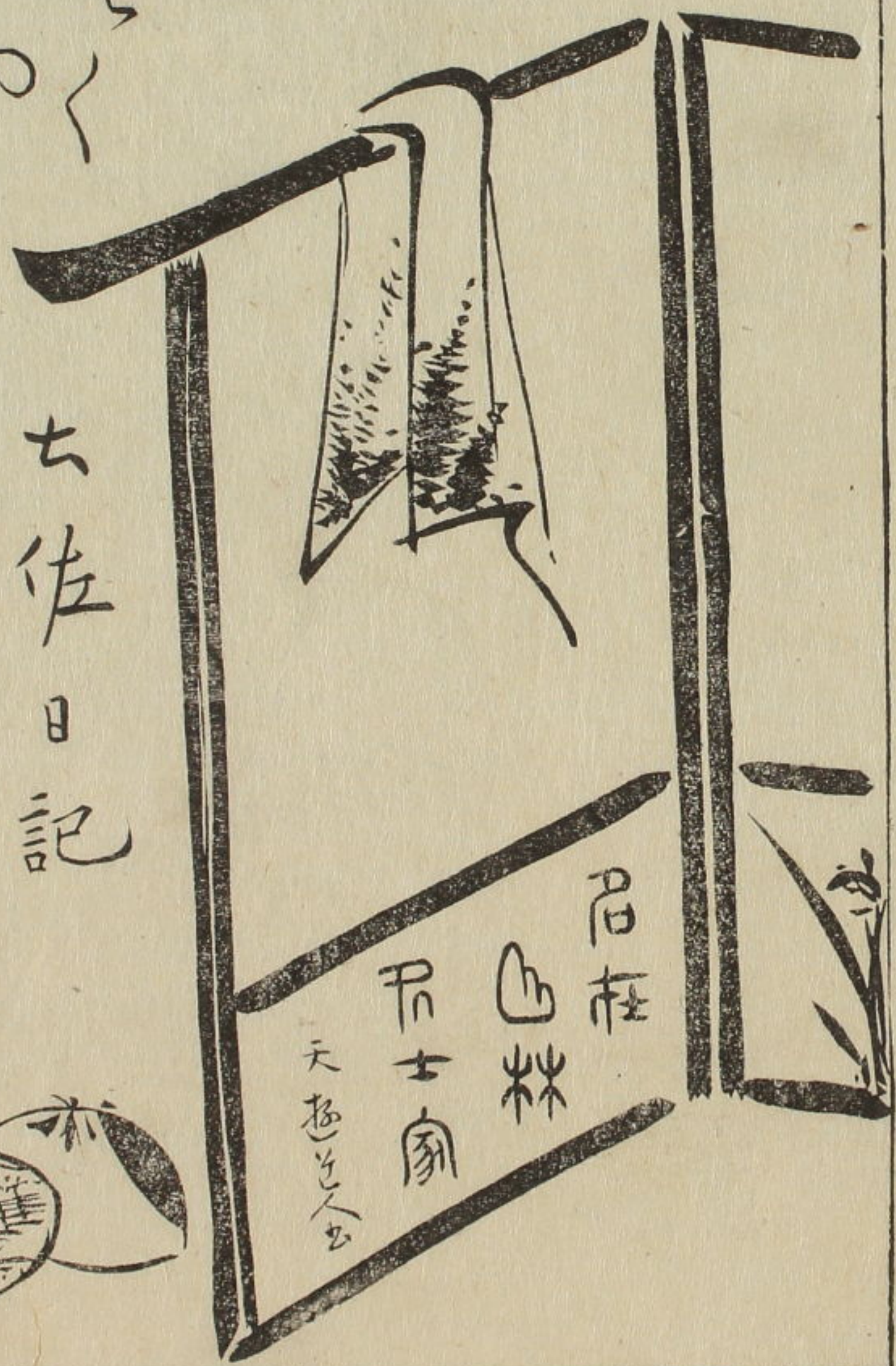
七
佐
日記

在雅

取

多
る

多
る
画



石
柱

山
林

天
極
道人
画

天
極
道人
画



十五



雨子風
長閑なる日も
柳可南
牧十

春水画



つ之林
裏越り
もの祝取

在尾

文南画

湯
 食
 都
 乃
 花
 紅
 追
 乃

六庵
 五井

文
 南
 画

頼
 の
 松
 半
 子
 く
 多
 り
 ち
 お
 深
 り
 月

在
 楚

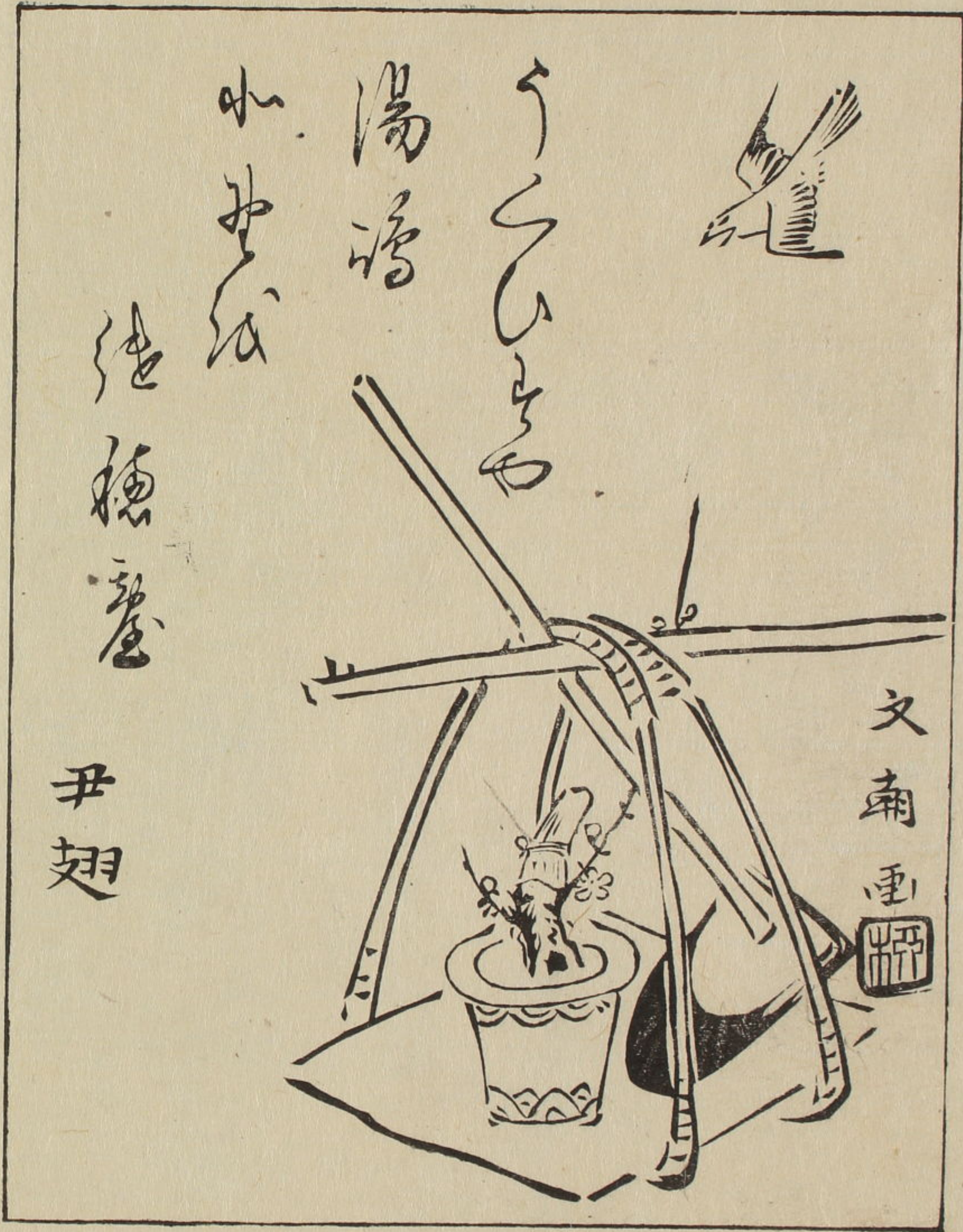


柳之渡舟

動

世能入也

文南画



文南画

个心也

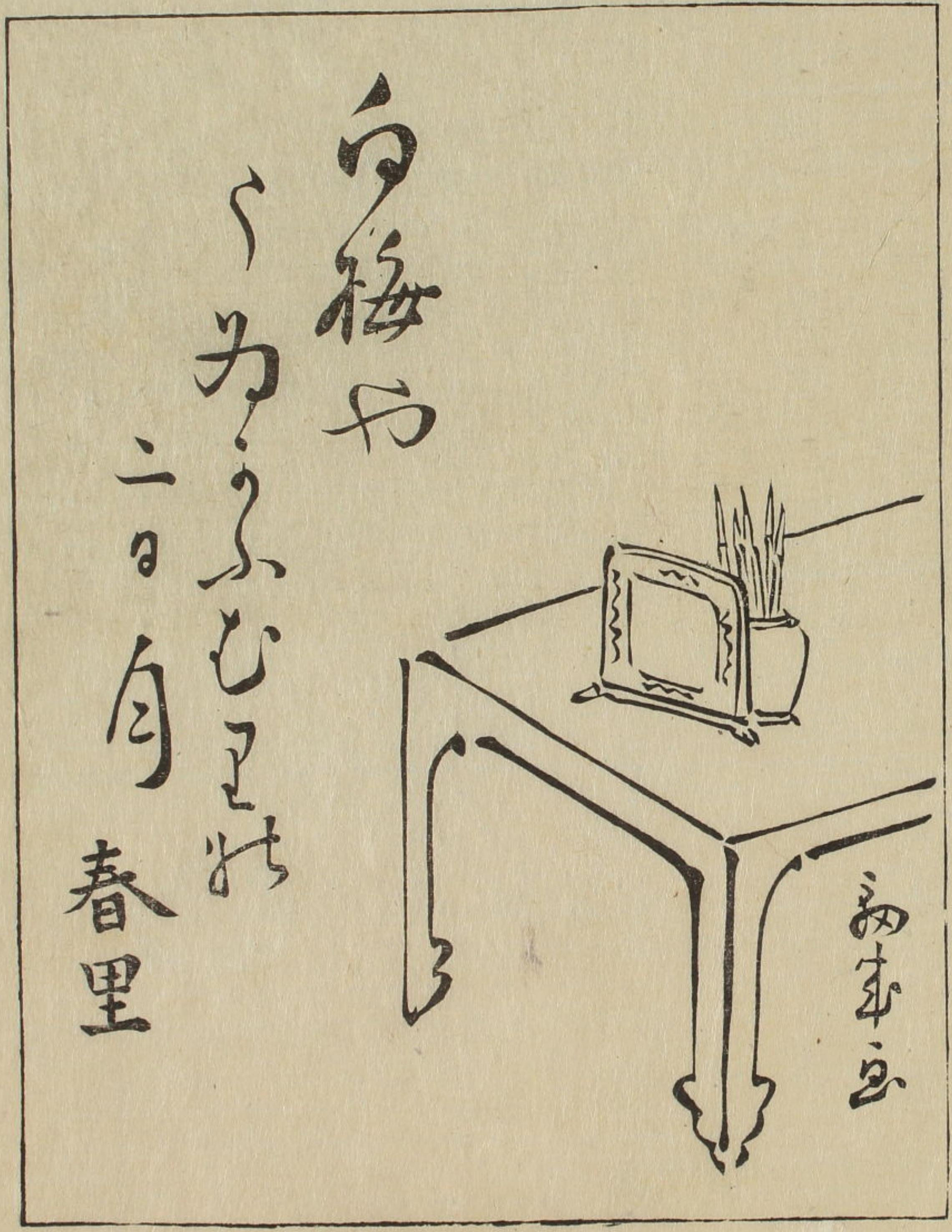
湯

水

德

尹翅





一ト一ト ちりや 藤も 酒乃友 香馬
 山姫よよあしと 午はや 海若依 春人
 春面や 梅も 小義と けりて 涼翠
 梅咲や 是段川の 雲は 一色 儲十
 之結の 一と日 一とや 高あしと 合浦

一ト一ト 獨立の 母を 磨く
 一ト一ト 治の 和を 遠く 作る

梅うらも 孤よ 今ふ 獨活の 白心 雪片

鳴立沢

一燈

一 燐

鴨 志々 志々 志々 志々 春部 志
 水 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳 柳

紫よ 柳 柳 柳 柳 柳 柳 沾涼

全

常 柳 柳 柳 柳 柳 柳 在轉
 三日月の 入る 柳 柳 柳 柳

守歳

皆渡まじく顔もた船の岡見が 楚琴子

年の瀬もせほくぬるむ除夜の鐘 雲亭子

行と耳もま中序し年の入 江鳥子

年尾

君の代のまじくも軽きち矢破魔 杏英子

りよもまもも又ちい糸柳 棠英子

橙子所走の色とちうりりるま 相莪子女

大呂

ふよらう所走の雪の銀世界 亀李

棒鱈もとほらちの波百らり 其棠子

年の尾の十七日や春の色 梅社子

歳暮混雑

お垂略

大とちや幣の告より 名の通板
 壁ひく喜ばとちりやウー板
 とのちりや茶何り物点星
 松立きまきりや年の名
 併花よりし歩りや嫁う君
 川とちや太く海の並もよー
 神柳おいとちあひく大工の柳
 大とちを定うてはり星月板
 せとくくのち葉の花や衣配

仙菓 墨河 待美 節花 神素 守山 平樹 砂山 百丸

正月の結納もさよひせ 曆
 みこと川 常の由り千代のち市
 足るもぬ虎り於菟へ世の師走
 川流のちゆりちゆり 世の師走の柳
 おとちゆり歌のちゆり 世の師走の言
 やちゆりちゆり喜姑白のち小島菖
 深つ子よちゆりも早ー 神ーの血
 腰り皆歳の大工乃道吳 管
 神くさーゆり柳の山あつ
 常のちよちゆり 柳の師走の馬

沾園 沾吟 里堂 柳波 儲十 薰子 涼翠 布仙 萬卷 馬丈

ふりまの庄お島田地もちの吉
除初の鐘奥津よ泊る人も有
足る車よ柳よ雪よ〜のら池
破テテや羽子板よりも穿ち〜
大三十りと宵こ〜ちん紋〜
茶の戸や茶よ〜と〜建坊〜

楮船
蒼洞
貫車
湘十
萬橋
雪燈

枯蓮の濁子深紅啼走う那
酷も呷乞の懸中眼の〜うい

海旭
芳竹

あは〜る仲よと京の〜う那
年もちや〜の世〜り物〜の
月雪や〜もは守の哥〜
煤や空舟よ消く〜や其夜除
水音の今や〜る除あ〜
一ト声や田唄も〜る年の梓
大〜や人〜る〜 衝士〜
市人の〜る〜や〜と〜角屋交
ふ〜や〜の〜の目新井
簞ひ〜の〜る〜や同ん鬼〜

貫町
芝光
亀成
白抄
秀国
麦立
一磨
牧十
子猛
金峰

年波巾伸し静子人き波

岩附 石馬

雪子折出は餅子志くく柳うぬ

何來

才一斗十高盤かてせ身口星純

阿想

人のまし一昨走かきくやふらつふ星

佛外

かゝ鐘の後を文箱の昨走きぬ

雪片

遍照り衣うくもやとくも籠

尹督

かんぢぢりよはらり年くく懐く年

末示

一とものすく事は 芝賣

雪赫

稚子門よ松買得る星年雲杖

季大

りとも諏訪の氷のうら都宮

寸松

篠一日ゆ走の遊らふうりり雲

秀成

青より川也柳の髪も揺るく

長隠

川身の圓取長くあやむらぎら

菊童

裡く身掛のぬかき 大之十日

曲秀

身波のゆんをぬもや 柳立貝

茶川

松井の堀よき事也 大曲り

茨條

松巾夕の色はく赤く

豊水

晩年

板東屋少殿おゆいそ 宝船 泊涼

大尾

翌ら春手揃いそ 本よ子安あそ

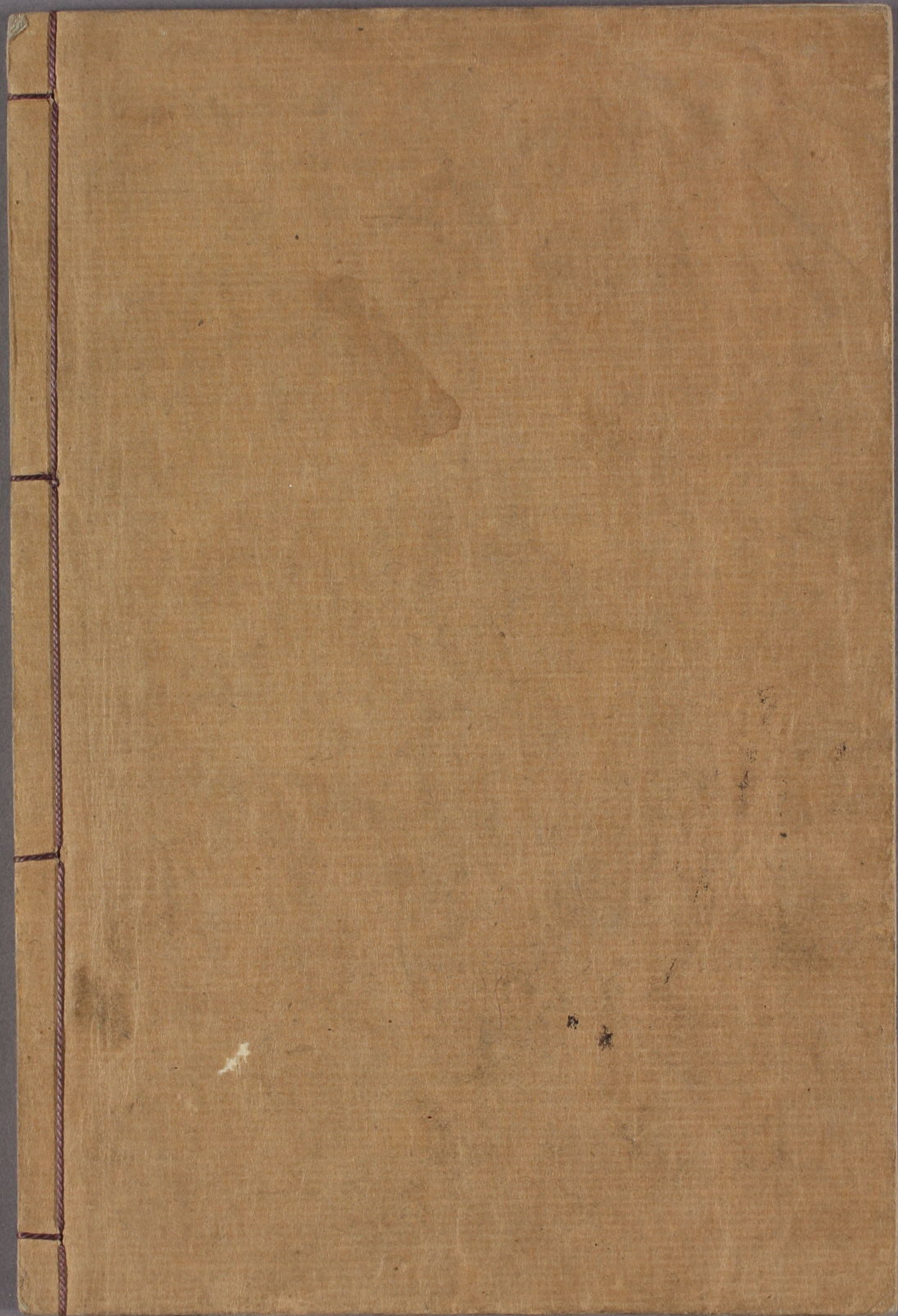
在轉

川手坂人のきさうや 駈駒

多う暦十一年の初日か

刻者

岡本松魚



55

①

繪のあした

55

繪のあした

901

書106 繪のあした

半一冊

(宝暦十一 1761)

106

書 106